

submarine を支えるもの

神奈川地本カレッジ防衛モニター 片岡初実

横須賀潜水艦教育訓練分遣隊
深海救難艇操縦体験（筆者：左）

カレッジ防衛モニターとして去る2月18日（水）、モニターとしてともに活動する仲間や地本の方々とともに自衛隊の部隊を見学した。まず見学させてもらったのは、横須賀潜水艦教育訓練分遣隊だ。深海救難艇とは、海中で遭難、沈没した潜水艦の乗員救助のための潜水艇であり、日本には二隻しかないこと、そして、その二隻の技術が世界に誇るべきものであるということとを説明を通して知った。面白さを交えて話をしてもらったので、楽しく学ぶことができた。その後、実際に模擬操縦室にて操縦体験をした。操縦室は狭いと感じたが、その狭いながらも皆さんの装置がつまっていた。進行方向だけでなく傾きや海水の状態まで考えて操縦しなければならぬので難しくかった。傾いたときにバランスをとるのも大変で、実際に操縦する方々の大変さを感じることができた。

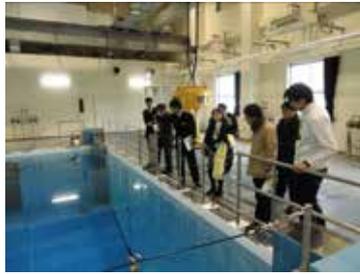
横須賀潜水艦教育訓練分遣隊の見学のうち、船越基地を見学して第2術科学校の隊員食堂で昼食をとるという滅多にない形で空腹を満たし、同校の資料館を見学した。資料館は以前見学したことがあったが、今回は解説つきだったので、その物事が起こった原因やそれによる結果、その後のつながりなど、資料をみるだけではわからないようなことまで聞くことができた。

最後に、海上自衛隊潜水医学実験隊の見学をした。潜水医学実験隊は研究を通して潜水艦の乗員や潜水員の方々の健康促進や安全確保に貢献している部隊だ。巨大な水槽や装置だけでなく、その内部が生活するのに困らないようになっていることに驚いた。圧力がかかるためでの生活は苦しいこともあるそうだが、研究を通して潜水艦の乗員や潜水員の方々の健康面や安全面において大きく貢献していると考えるところやはりとも大切な任務なのだと感じた。

神奈川地本の本部長が潜水艦乗りだったため潜水艦関連の内容の研修をしい—そう提案したら今回の研修が実現した。潜水艦は横須賀のある神奈川県には非常に縁のあるものである。潜水艦を実際に見学するのではなく潜水艦を支える働きをする部隊を見学することで、潜水艦についての知識をより深めることができたと思う。



第2術科学校史料館



潜水医学実験隊 訓練水槽

海上自衛隊研修

神奈川地本カレッジ防衛モニター 関 宏康

今回は横須賀潜水艦教育訓練分遣隊、海上自衛隊第2術科学校、並びに海上自衛隊潜水医学実験隊の部隊研修をさせていただいた。まず初めに潜水艦救難母艦に搭載される深海救難艇の訓練装置を実際に操作させていただいた。とても大掛かりな三軸による動きを再現する模擬操縦室やシミュレーションを行うサーバーーム、監視コンソールを見て興奮が収まらなかった。簡単な説明を受けた後、実際にシミュレーションによる深海救難艇の操舵をさせていただいた。コックピットは4人乗りでかなり狭く、計器やペリスコープの映像を映し出すモニターやボタンが所狭しと並んでいた。シミュレーターと言ってもコックピットは真心をとてにくすぐる場所で興奮は頂点に達した。コックピット内で30度の傾斜を体験したが、とても急で踏ん張るのが大変であった。

第2術科学校では、校内にある資料館で旧帝国海軍縁の貴重な品の見学や海上自衛隊創設の歴史について学ぶことが出来た。旧海軍から続く理由や横須賀が今でも縁ある地である理由など興味深い話ばかりであった。

潜水医学実験隊では、飽和潜水の訓練を行う設備や潜水艦からの脱出訓練を行うプールの見学を行った。

今回見学した部隊は、潜水艦部隊の救出にあたる重要な役割から、縁の下の力持的な欠かすことの出来ない存在であることを感じた。

横須賀潜水艦教育訓練分遣隊
深海救難艇操縦体験（筆者：左）